



## 「第二次日本経穴委員会」便り

～第49回 経穴の文字表記と読みについて～

第二次日本経穴委員会・作業部会委員 こばやしけんじ 小林健二

### はじめに

昨年の本誌11月号に「経穴の読み方の検討」、本年4月号に「経穴の表記の検討」、6月号に「経穴名使用漢字・読み方の改正原案」と題して、3回にわたって「便り」を載せましたが、作業部会では幾度となく討論した結果、以下に述べるような基準で経穴の表記と読み方を統一したいと考えています。しかし、あらかじめ申し上げておきますが、第二次日本経穴委員会・作業部会の統一意見であり、提案であります。

### 経穴名の文字表記について

以下の原則により経穴名の表記をする。

#### ①1989年版 WHO標準鍼用語を基準とする

わかりやすい例として太陰肺経の「雲門」は89年版では「雲(云)門(门)」のように明記されている。これは、「正字(各国の異体字=中国、日本、韓国の順)」のように、各国それぞれ使われている漢字を使用してもよい、という意味です。つまり中国は「云門」の表記、日本は「雲門」の表記にする、ということです。

#### ②常用漢字に該当する文字は常用漢字に改める

今までは旧漢字と新漢字が入り交じった表記がありました。例えば旧漢字使用の例として

「俠白」「列缺」「絲竹空」「陽谿」の俠、缺、絲、谿などです。旧漢字を使用する基準であれば「経渠」は「經渠」、「尺沢」は「尺澤」と表記すべきですが現在の教科書はそうはなっていない。表記の統一性を持たず意味で俠→侠、頰→頬、缺→欠、絲→糸、谿→溪のように常用漢字(1981年制定内閣告示)に統一しました。

例：俠白→侠白、頰車→頬車、缺盆→欠盆、絲竹空→糸竹空、太谿→太溪など

#### ③教科書および教育関連図書で常用・流通されている異体字は例外的に残す

「郛門」「陰郛」「浮郛」などで使われている「郛」の字は正字ではありません。「郛」が正字で「郛」は異体字です。

郛門など「郛」の付く経穴名をWHOの基準で見ると「陰(阴)郛」「浮(浮)郛」「郛門(门)」などのように89年版では明記され「郛」の字がありません。これは「郛」の字が広く伝統的に古典文献、教科書などで流通していることから、この字を使用しています。作業部会でも郛の字を使用した「陰郛」「浮郛」「郛門」という表記をせず、従来の「陰郛」「浮郛」「郛門」を使用しました。

## 経穴名の読みの原則

①経穴名の前に身体各部の名称が付く場合は訓読みで、経穴表記との間に「ノ」は入れない例：「頭竅陰」は「アタマノキョウイン」ではなく、「アタマキョウイン」。手三里、足三里、腹通谷、頭竅陰、腰陽関なども同様。

②促音便化（つまらせて発音する）を原則

促音便とは、前の字が入声（音読みがツ・チ・ク・キなどで終わる）で後の字が清音（音読みがカ・サ・タ・パ行で始まる）とき、前の字の末尾を「っ」に変化させること。

列欠→レッケツ 腹結→フッケツ  
絡却→ラッキヤク 魄戸→ハッコ  
膈関→カッカカン\* 秩辺→チッペン  
束骨→ソッコツ 石関→セッカカン\*  
率谷→ソッコク 曲骨→キョッコツ  
膝関→シッカカン\*

「膈関」「石関」「膝関」については、それぞれ慣用的読み「カッカカン」「セッカカン」「シツカン」も通用することにしました。

③「大」は「ダイ」、「太」は「タイ」に統一

・大→大迎、大巨、大都、大横、大包、大杼、大腸兪、大鍾、大赫、大陵、大敦、大椎  
・太→太淵、太乙、太白、太溪、太衝

④「上・下」は「ジョウ・ゲ」、「内・外」は「ナイ・ガイ」、「前・後」は「ゼン・ゴ」に統一

・上→上巨虚、上髎、上関、上星、上脘  
・下→下廉、下関、下巨虚、下髎、下脘  
・内→内庭、内関  
・外→外陵、肩外兪、外関、外丘  
・前→前谷、前頂  
・後→後溪\*、後頂

「後溪」は慣例的読み「コウケイ」も通用。

⑤「神」は「シン」に統一

・神門、神堂、神封、神蔵、本神\*  
・神道、神庭、神闕

「本神」は慣例的読み「ホンジン」も通用。

⑥「正」は「セイ」に統一

・支正、正営\*

「正営」は慣例的読み「ショウエイ」も通用。

⑦「溜」は「リュウ」に統一

・復溜、温溜\*

「温溜」は慣例的読み「オンル」も通用。

⑧「巨」は「コ」に統一

・巨骨、巨髎、大巨、上巨虚、下巨虚、巨闕

⑨「封」は「ホウ」に統一

・中封、神封\*

撥音「ン」の後に「ハ行」音がくる場合は半濁音とした。「神封」は「シンポウ」。

⑩「兪」「灤」「臑」「膻」については、慣用的読み（「ユ」「レキ」「ジュ」「ダン」）を採用

⑪その他（慣例的読みも併用して使用）

・僕参は「ボクサン」「ボクシン」  
・顴髎は「カンリョウ」「ケンリョウ」  
・食竇は「ショクトウ」「ショクトク」

## 経穴の日本語読みについての今後の課題

今回の日本語版の出版に際して以上のような議論、検討をしてきましたが、最終的な読みの統一は時期尚早ということで保留としました。

日本語表記と読みの原則を上記のように示しました。特に、「兪」、「灤」、「臑」、「膻」の読みについては、慣用的な読み（「ユ」、「レキ」、「ジュ」、「ダン」）を採用しました。しかし、学術的にはこれらの音読みは、「シュ」、「ラク」、「ノウ」、「タン」とする方が適切だとする指摘がありました。学術的には今後の議論のテーマになると思います。